

農学部・農学生命科学研究科

I	研究水準	研究 6-2
II	質の向上度	研究 6-3

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準を大きく上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成 19 年度の教員一名当たりの著書雑誌の平均件数は、4.8 件、著書雑誌（和文以外）は 2.8 件である。平成 16 年度から平成 19 年度の期間において、教員（307 名）は毎年 3,000 件を超える多くの成果（著書、研究論文、学会発表など）を上げ、約 60%は英文論文である。知的財産権の出願・取得状況は、平成 19 年度に 28 件、特許取得件数は約 10 件である。研究資金の獲得状況については、平成 19 年度の科学研究費補助金の採択数（採択金額）が約 320 件（16 億円）で、高額種目の採択増加が顕著であり、受託研究費も増加傾向にある。研究環境は、法人化以降急速に充実しつつあり、設備の共同利用と若手研究者確保による研究活性化につながっていることなどは、優れた成果である。

特に、教員の高い研究活動と外部資金の獲得が、共同研究や若手研究者確保による研究活性化につながっているという状況は、極めて高い水準にあり特筆すべき状況にあるという点で「期待される水準を大きく上回る」と判断される。

以上の点について、農学部・農学生命科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、農学部・農学生命科学研究科が想定している関係者の「期待される水準を大きく上回る」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準を大きく上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、植物・動物・微生物の分野で、先端的研究成果が多く生まれている。卓越した研究成果として、例えば、イネの形・生育・代謝生理に関する遺伝子の発見、植物ホルモンであるサイトカイニン活性化遺伝子の発見、別の植物ホルモンであるジベレリンの受容体の特定とシグナル伝達機構の解明、マウスミトコンドリア DNA 変異の蓄積により加齢性難聴になることの解明、植物病原体の一群であるファイトプラズマの全ゲノム解読による、昆虫による媒介機構の解明など、国際的に評価の高い成果を上げている。また、タイ王国カセサート大学からの名誉博士の授与なども含め、

学会等による表彰が 58 件、優秀学術論文に与えられる論文賞が 19 件、国内外の学術集会における優れた発表に対する表彰が 11 件にのぼることなどは、優れた成果である。

特に、植物・動物・微生物等の基礎研究において、世界最高水準を維持しつつ、農学を中心とする関連学問分野の知の総合化を進め、新規産業分野の創出・育成を通じて社会に大きく寄与し、あらゆるメディアを通じて持続型社会が執るべき環境保全の在り方について、広くかつ強力に提言を行っているという状況は特筆すべき状況にあるという点で「期待される水準を大きく上回る」と判断される。

以上の点について、農学部・農学生命科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、農学部・農学生命科学研究科が想定している関係者の「期待される水準を大きく上回る」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は 4 件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。